

## 令和7年度 第3回岐阜県環境審議会企画政策部会 議事録

日 時	令和8年1月26日（月） 10:30～11:40
場 所	岐阜県水産会館 大会議室
出席者	<p>&lt;委員&gt; 15名（欠席委員 4名）</p> <p>恩田委員、大場委員、加藤委員、後藤委員、佐伯委員、澤田委員、高村委員、田代委員、田中(露)委員、デュアー委員、西脇委員、藤田委員、山田(直)委員、松下委員（代理：水原中部地方環境事務所次長）、山田(容)委員（代理：二ノ宮中部経済産業局環境・資源循環経済課長）</p> <p>&lt;県（事務局）&gt; 32名</p> <p>吉川環境エネルギー生活部次長、工藤環境エネルギー生活部次長、大川環境生活政策課長、大野環境生活政策課自然公園活用推進室長、江崎環境生活政策課生物多様性企画監、説田環境生活政策課政策企画係長、亀谷環境生活政策課主査、安江省エネ・再エネ社会推進課長、八代環境管理課長、安藤廃棄物対策課長、牛島廃棄物対策課資源循環推進監、佐藤県民生活課長、山本SDGs推進課課長補佐兼係長、小木曾未来創成課係長、宮田危機管理政策課課長補佐兼係長、古川健康福祉政策課主任、下條商工労働政策課係長、後藤観光文化スポーツ政策課主任、総山農政課技術課長補佐、井戸農産園芸課技術課長補佐、佐藤畜産振興課技術主査、松原農村振興課技術課長補佐兼係長、福井里川・水産振興課係長、細野農地整備課係長、山田林政課主任技師、和田森林経営課技術課長補佐兼係長、池田建設政策課係長、小林都市政策課課長補佐兼係長、武藤公共交通課主査、西尾高校教育課指導主事、浦中教育研修課課長補佐、船戸装備施設課課長補佐</p>

## 会議の概要

### 1 開会

#### 2 環境エネルギー生活部 吉川次長あいさつ

- ・委員の皆様方には、日頃から県の環境行政の推進について、格別のご理解とご協力を賜り、御礼申し上げます。また、本日は、ご多用の中ご出席を賜り重ねて御礼申し上げます。
- ・これまで部会においてご審議いただいた第7次岐阜県環境基本計画については、昨年12月に素案をまとめて以降、県議会への報告やパブリックコメントを経て、案としてとりまとめさせていただきました。
- ・本日の部会でご審議いただき、環境審議会へ報告する企画政策部会案のとりまとめをお願い申し上げます。

#### 大場会長あいさつ

- ・部会はこれまで2回開催しており、案については市町村や県民の方に広く意見を求めて今日に至っている。
- ・本日、委員の皆様にご審議いただき、さらに次回の全体審議会の方で最終的な検討という流れになる。
- ・今回は、部会としてのまとめということになる。広くご意見をいただければと思うので、ご協力のほどよろしくお願いしたい。

### 3 議事

#### (1) 第7次岐阜県環境基本計画（案）について

事務局（環境生活政策課）から、第7次岐阜県環境基本計画（案）について説明を行った。  
また、以下のとおり発言があった。

#### （大場会長）

- ・パブリックコメントでは3名の方から意見があったということであるが、3名というのは多いのか少ないのか。また、どの程度、新たな基本計画の策定が認知されているのか。

#### （大川環境生活政策課長）

- ・3名の方から14件のご意見をいただいた。私どもとしても、しっかりPRをさせていただいたとは思っているが、3名というのは少ない方であると認識している。

#### （大場会長）

- ・環境問題への意識の高さや関心がある中での意見の数なので、ある意味、完成度が高いと考えてもよいのではないかと。意見が少ないということであれば、「この内容で大丈夫だろう」という結果であったと理解しても良いかと思う。

#### （後藤委員）

- ・意見が少ないことについて、なかなか声が届かないという環境があると思う。私自身も、環境保全の団体に所属しているが、発表の場ではなかなか発言が行えない。しかし、環境意識については、皆さんが持っていると感じる。

#### （大場会長）

- ・今回の計画について、周囲の方の意見や認識度合いはどうか。

#### （後藤委員）

- ・認識度は高くないと感じている。意識はしているが、なかなか意見が通らないと公募委員としては感じる場所。

(大場会長)

- ・意見が通らないということについて、意見は求めているが上がってこないのが、事務局側としては拾いようがない。何かそこに問題や課題、改善点があれば、今後の参考になるかと思う。

(後藤委員)

- ・会議に参加させていただき、意見を言う機会はある。計画自体の完成度は高いため、どこまで意見を言えるのかということについてやや抵抗もある。

(田中(露)委員)

- ・環境の問題となると、分かっているようで、分かっていないという方々も多い。意見として持っていても、なかなか意見として出していけないこともある。案件に対して、興味を持っていただけるような施策を行っていただければと思う。

(西脇委員)

- ・資料4の30頁中段「気候変動と防災の推進による強靱な県土づくり」の3番目の項目の出だしの表現「災害発生前から復興後の姿を描き」について、ニュアンスとしてはよく分かるが、基本計画の出だしとしてこのような表現はどうか。この先の文章を読むと趣旨は分かる。
- ・後段の文章から、将来、災害が発生しないような復旧体制づくりをやっていくというニュアンスは理解できる。ただ、現在の表現だと、普段からここはおかしいから、直していこうという姿勢なのか、それとも災害が発生したときに、今までの状況ではおかしいから、原形復旧ではなく、良い方法を考えようというものなのか、この辺りが理解しにくい。表現を変えたほうが良いのではないかと思う。

(大川環境生活政策課長)

- ・表現を工夫し、しっかりと伝わりやすい記載としたい。

(大場会長)

- ・表現の修正について、ご検討をお願いしたい。

(松下委員代理)

- ・市町村の意見の中で、環境影響評価の話があったかと思う。資料4の38頁の関係だと思うが、全国的にもメガソーラーなどが問題になっており、地元寄りになり、自然状況も含めて対応していくということで、国でも関係省庁で制度も含めた検討が進んでいる。そういったことも踏まえると、市町村の意見のように、もう少し丁寧に書くということもあり得ると思うが、これは岐阜県内における温度感次第というところもあるので、表現はお任せしたい。

(八代環境管理課長)

- ・市町村からの意見にある地域特性という部分は、条例に基づく技術指針等で、事業者は、地域の環境の状況を勘案して、県、市町村及び住民の意見等々を聴きながら一連の手続きを行うものと記述されている。環境影響評価制度の適正な運用を行うことでカバーできると考えているが、記載に修正すべき点がないか改めて検討してまいりたい。

(恩田委員)

- ・資料4の51頁「指標一覧」に記載の一般廃棄物の再生利用率について、現行計画では目標値を28%としている。第7次計画において県は29%を目標として設定しようとしたが、廃棄物・リサイクル部会において、現状では目標値の達成が難しいのではないかと意見があり、26%程度が妥当ではないかとされた。また、国においてもおおむね26%を目標値として設定しているところである。
- ・これまでも繰り返しお伝えしているが、目標値は高く設定し、その高い目標に向けてどのように実現していくかを検討することが大事である。とりわけ、県民の皆さんにも取り組みに参加していただくのであれば、高い目標を掲げることで意識の醸成につなげていくことも大事である。また、高い目標値の達成を目指す中で、新たな技術革新が生まれる可能性もある。
- ・仮に目標値を28%に設定したうえで、結果が25%であったとしても、特段誰かが不利益を受けるわけではない。目標設定とは、本来、高い目標を掲げ、その達成に向けたプロセスを重視するも

のである。こうした観点からも、目標値は現行計画にある28%とする方が適切ではないか。

(安藤廃棄物対策課長)

- ・その件については、1月23日の環境審議会のリサイクル部会で改めて議論いただいた。第2回の同部会の段階で一般廃棄物の再生利用率の目標を28%から26%に下げるという議論がなされて、26%が妥当であろうということであった。
- ・背景にあるのは、令和7年度の推計値のリサイクル率が実態として21%という状況がある中で、28%から26%に下げるという判断がされた。恩田委員が言われたようなお話もあり、改めて第3回の同部会において、フラットな形で委員の皆様の意見をお聞きし、改めて議論いただいた。
- ・第2回目までの議論を踏まえ、26%でパブコメにもかけたが、パブコメの段階では、26%に対し、意見という形での提出はなかった。一方、市町村の意見聴取をする中で、26%という数字自体もかなり高い数字であり、そもそも達成が難しいという意見もあった。
- ・こういった状況を第3回の同部会で説明させていただき、フラットに議論いただいたが、足元の状況を見据えて目標値を設定するのが必要じゃないかという意見や、そもそも26%自体も目標としてかなり高い、市町村の意見が実態なのだろうと、絵にかいたような目標を掲げるよりも、実態を見据えて、きちんと目標を掲げて施策を推進していくことがよいのではないかということで、目標を28%から26%とすること、改めてこれでいくとなった。同部会の議論の結果を、県としても尊重したいと思っている。

(加藤委員)

- ・市町村の立場からすると、例えば、この数字が非常に高い数字に設定されていると、実現していないという批判を受ける。批判を受けることは大事なことだと思うが、実際には現実的な数字ではない設定に対し、どれだけ努力しても達成しないような目標であるとすると、非常に困るという思いがある。
- ・現実的な数字を目標として設定していただくことは、非常にありがたい。ただ、恩田委員がおっしゃった趣旨も非常によくわかる。

(松下委員代理)

- ・私もリサイクル部会に出席していたので補足する。前提として、例えば、紙ごみがペーパーレス化が進んで少なくなり、分母が少なくなっていることもあり、リサイクルできるものも、相対的に減ってしまっているとか、社会情勢の変化もあるという説明を受けているところ。
- ・いずれにしても、同部会では、目標を下げるからといって対策を緩めるものではなく、しっかりと対策を進める前提で、26%でも良いのではないかといった話であったかと思う。

(恩田委員)

- ・(加藤委員と松下委員代理の) ご意見はごもっともだが、目標達成のために何が駄目だったのか、その途中の過程を議論し、少しでも目標達成に近づくような策を考えることが大事ではないか。
- ・高い目標を達成できるに越したことはないが、目標が達成できなかつたら、もう一度議論することで、次の高い目標を達成する一歩につながると思う。
- ・達成できなくとも、足らない分は次回補うだけ。当然、ペーパーレスで紙が減っていることも十分理解している。それ以外のところのリサイクルをどう対応できるのかということを考えていくことも大事。目標設定は引き続き28%がいいと思う。

(大川環境生活政策課長)

- ・現行計画で28%を設定した当時は、検討段階では23%の再生利用率があったところから、28%を設定したと聞いている。それが、コロナ禍の影響があり、集団での回収が減ってきてしまったということもある。この傾向はコロナ明けでも戻り切らず、今年度も21%の見込みだと聞いている。前回計画策定時は、23%から28%の目標を設定した。今回は、21%の現状から26%を設定したと聞いている。

(大場会長)

- ・この辺りは実態の部分との乖離があるため、どのように穴埋めするか、市町村で抱えているそれぞれの問題もあるが、これから5年間の計画の中で、何%ぐらい埋めていけるかだと思う。
- ・現状は、県内の平均で21%ということだが、例えば、ハードルを26%と設定しても、高いと感じ

る自治体もあるのではないかといった印象を持ったが、全体のバランスはどうなっているのか。

(安藤廃棄物対策課長)

- ・各市町村のリサイクル率は様々で、例えば、生ごみのRDFを行っているところはかなり高いが、全体としては21%が平均であり、市町村ごとにかなりバラつきがある。

(大場会長)

- ・平均値ではなく分布はどのような状況か。平均値だと、例えば50%達しているところがあればそれだけでも値が上がってしまう。それでは自治体全体の状況を把握できないため、全体が分かるような雰囲気を教えていただけないか。

(安藤廃棄物対策課長)

- ・分布を一概に説明することは難しいため、主な市町村のリサイクル率を説明させていただく。
- ・例えば、岐阜市の令和5年度のリサイクル率は12.6%、大垣市が18.0%、高山市が15.7%。高いところでいくと、恵那市が59.3%、各務原市が26.7%。低いところでは山県市が9.5%、富加町が6.1%である。

(大場会長)

- ・相当バラつきがあると感じた。なかなか足並みも揃いにくく、低い数値の市町村には、相当ハードルが高く、絵に描いた餅になってしまう。温度差が出てしまうという印象で、悩ましい。

(西脇委員)

- ・住民の方の協力は、非常に大きな要素であることは誰でも分かる話だが、ケースによっては非常にやりにくい。私どもは3市町で構成する南濃衛生施設組合というところで処理をしているが、やはり各市町によって取組が違う。
- ・先進自治体から、「同じように取り組んでほしい」と要望を受け、関ヶ原町では最初に始めた廃プラ収集の取組が、他の市町ではやっていなかった。住民の方からは、「関ヶ原町だけがやっていて、なぜ他の市町はやらないのか」というような話もあり、他の市町にもお願いした。こういったことから、取組が他の市町に徐々に広がることもある。
- ・また、廃プラも、汚れが付いているものを廃プラという区分の中で出されると非常に困るので、汚れている廃プラは燃えるごみである周知をずっとやっているが、なかなか徹底できない。そのため、処分場で人を雇って、全部ごみを開けて分別しているが、非常にコストがかかる。
- ・そのコストをどうするかという問題もある。住民の方に協力をお願いするが、コスト面を考慮すると、実際は対処しきれないところがある。住民の方のご理解が得られるところは、取組がどんどん進んでいき、得られないところはなかなか取組が進まないという現状があると思っている。
- ・そういったことから、県としても、ある程度高い目標は設定しつつも、実態として住民の方の協力が得られるような仕組みづくりを考えていただき、しっかりと周知・徹底をお願いしたい。時間はかかると思うが、底辺からやっていくことで実際に成果が上がる方法だと思う。

(安藤廃棄物対策課長)

- ・リサイクル率には大きなバラつきがあり、要因としてはそれぞれの地域特性や、設置している施設の特徴によってもリサイクル率は変動する。分別数によっても変わってくる。特にリサイクル率が高い市町村の特徴的な部分は、情報共有を行うことで横展開を通じて各自治体に促していきたいと考えている。

(大場会長)

- ・数字を伺った範囲だと、26%も28%もあまり変わらない。むしろ、それよりは、各自治体の横のつながりで、どのようにして全体のレベルアップをするかというのが大きな課題と感じた。
- ・リサイクル部会で26%と決まったものが今回の企画政策部会で審議中であるが、今回の政策部会で覆ってしまうことがあり得るのか。あるいは、次回の全体審議会でもう一度検討した方が良いのか、手続き的にはどうなるか。

(大川環境生活政策課長)

- ・環境審議会の仕組みであるが、来週開催するものが環境審議会、その下に今回ご出席いただいている企画政策部会とリサイクル部会がある。
- ・リサイクル部会は先週行われ、26%の目標設定が決定し、来週の環境審議会に諮る予定。また、今回議論いただいている環境基本計画の指標は、下位計画である廃棄物処理計画の数値を適用して設定している。同様に来週の環境審議会に諮る予定。
- ・リサイクル部会での判断と企画政策部会での議論の内容を環境審議会の方でお諮りして議論いただくべきかと考える。

(大場会長)

- ・恩田委員、次回の環境審議会で、リサイクル部会の意見を聞きながら、最終的な案にする方向で進めて良いか。(恩田委員承認)

(加藤委員)

- ・資料の作り方であるが、第6次計画における各施策の達成状況で、21.7%は2023年の数字を使っていて、数値目標は28%としてあるが、県の説明では、第6次計画設定当時は約23%に基づく設定という話だった。それに対して、第7次計画の目標設定にあたり同じ21.7%を記載しているため、28%が26%に下がってしまったという印象を受けてしまうのでは。実際の第6次計画設定当時の数字を資料に記載すると分かりやすいのでは。

(大川環境生活政策課長)

- ・資料11頁の現状21.7%というのが第6次計画の目標28%に向けて取り組んできた結果である。この28%の目標設定時は、2018年の23.3%を適用している。ご指摘のように、わかりづらいため表現の見直しを検討する。

(恩田委員)

- ・数値目標は28%でも26%でも良いが、高い目標を達成するための途中のプロセスを大切にされた方が良い。先ほど、各自治体のリサイクル率のバラツキの話があったが、そこに対して何%を積み上げて目標を設定することが本来であると思っているが、そこまでは求めない。ただ、最終的には完全にリサイクルできる社会を望むものであり、今回の計画の最終年度にはそうはならないにしても、高い目標を掲げた方が良いのではないかと。目標を達成できなかったとしても、途中のどう議論したかが大切である。

(加藤委員)

- ・一般廃棄物を一括りで話しているため、分かりにくい部分もあるが、県の方で何種類かを把握しているのか分からないが、リサイクルの品目を増やす目標をしたほうがよいと思う。
- ・徳島県の上勝は30何種類の分別をしており、集積所はとても広く箱がたくさん並んでいる。
- ・分別できる種類を一つずつ増やすなかで、リサイクル率を上げることは可能と思う。1、2種類しかやっていないところは種類を増やしていくことを取り組んではどうか。

(安藤廃棄物対策課長)

- ・分別数は自治体によってバラつきがあり、10種類程度のところもあると、20種類を超えるところもある。住民の協力が必要不可欠だが、分別数が多くてリサイクル率が高いところはそれなりに工夫している。情報の横展開を含めて推進していきたい。

(澤田委員)

- ・私も仕事の関係で、数値目標を高く持つことは、交渉の際に数値を上振れさせることはあると思う。
- ・ただ、やはり絵に描いた餅になってしまうのではないかと、果たしてそれが実現可能なのか、数値目標が独り歩きしてしまうのではないかと先週のリサイクル部会でも申し上げ、現状では26%がやむなしと感じている。
- ・個人的な意見になるが当然基本計画というものは理論的なものになると思うが、先ほど話があったとおり一般廃棄物の話になると、個人の立場の話になると思う。個人がどうしたらいいかを落とし込む必要があるのではないかと。個人の問題となかなか捉えづらいのかなとも審議会に参加し

て考えさせられた。今後、何かしら改善いただけるとよい。

(大場委員)

- ・今回、26%、28%という数値目標の部分の問題として、まず一つは恩田委員から話があったように、数値目標だけではなく、数字の背景にある各自治体における温度差やテクニカルな問題など、非常にバリエーションがあるため一つの数字で片付けられる問題ではない。
- ・リサイクル部会で出た数字をいったん受けたうえで、次回の環境審議会でもう一度委員の皆様で再認識したほうがよいのではないかと。
- ・今回の計画案について審議を受け、様々な意見をいただいた中で、ひとまず部会としてはこの計画案で進める。ただ、企画政策部会としての付帯事項として、次回の全体審議会の方で、リサイクル部会の報告内容をもう一度お聞きしながら、最終的な数字を決めていきたい。また、数字だけではなくその中身を工夫し、どのように各自治体にレベルアップしていただくかを検討していきたい。
- ・それでは、全会一致をもって、計画案を第2回審議会の方に報告するという事で決定する。

<以 上>